



# ARCO通信 vol.6 ~福島スタディツアー~

こんにちは!ARCOの小倉と滝沢です!

私たちは2023年8月22日~25日に福島県が主催する、西日本の大学生が対象のスタディツアーに参加してきました! 今回のARCO通信では、私たちが訪れた場所や食べ物など、福島の「今」と魅力についてお話していこうと思います!

福島県は、南北に連なる阿武隈高地と奥羽山脈を境に 3つの地域に分けられます。

この地域分けは地図のようになります。



https://www.f-turn.jp/static/appeal/

## ○福島の過去・現在・未来

まずは東日本大震災・原子力災害伝承館についてお話 します。

伝承館には展示施設が6つあり、地震や津波に加え て、原発事故が発生したことで避難しなければならな かった人々の様子などを、動画や展示物で学ぶことが できます。

まず私たちは、福島県の震災前から震災後の復興の取 り組みを、スクリーンで視聴しました。その後、1つ 目の地震や津波の発生直後のブースに入りました。こ こでは、地震発生時の家具が崩れ落ちたり照明が落下 したりする様子や、津波が沿岸部を襲う映像を視聴し ました。ニュースなどの映像で当時の福島県の様子を 見たことはありましたが、それだけではなく、地震で 変形してしまった側溝や、津波の被害を受けて壊れて しまった郵便ポスト、地震発生や津波到着の時刻で止 まってしまった時計が展示されていました。私たちが 普段生活していて当たり前に存在するものが、このよ うな形で展示されていることに強い衝撃を受けまし た。

壊されたポスト→

加えて、このブースでは原子力発電所ができたころの 様子も見ることができました。そこには国の省庁が主 催の「原子力ポスターコンクール」で、原子力の良さ (二酸化炭素を出さないため環境に良いなど)について 絵で表したり、放射線など危険性については触れつつ も、上手く原子力を使っていこうという内容を絵で表 したりしているポスターが掲示されていました。いま 私たちが原子力に感じている恐怖と当時の考え方には 大きな隔たりがあることを知り、とても驚きました。

2つ目のブースでは、原発事故で放射性物質が放出し たことにより、周辺住民が避難を余儀なくされる映像 が流れていました。そこでは避難する人々の車で渋滞 が起きていたり、放射線の少ない避難所に行きたくて も選ぶことができず、スクリーニング検査に長蛇の列 ができていたりする様子が映し出されていました。ま た、避難した方向けのダイジェスト版の新聞紙も展示 されていました。これは、県外に避難せざるを得なか った人が多くいたことで、県内の様子を伝えるために 発行されたものでした。そういった住民の不安感を投 影した展示がある一方で、このブースには被災された 方、特に子どもたちを励ましたいと、海外の子どもた ちから送られた絵画の展示がされていました。チョコ レートやスナック菓子の絵、メッセージ付きの絵など があり、国境を越えての支援に心を打たれました。

3つ目は福島県民にスポットを当てたブースです。震 災後の心情や震災前の思い出について語られている映 像が流れていて、東日本大震災は関西に住んでいる私 たちには、遠く離れた場所の出来事だと思ってしまい がちですが、他人事だとは思えない、思ってはいけな いということを実感させられる展示でした。また、原 発事故が原因で捜索範囲が限られ、原発から近い場所 であるほど捜索の開始時期も遅かったという話を聞 き、とてもやるせない気持ちになりました。



←原子力ポスターコンクールの ポスター



海外の子どもたちからの支援→

4つ目は、除染や風評被害の払拭の取り組みについてのブースでした。放射線防護服や除染するための機械の展示に加えて、震災が起きる前と直後、そして現在の空間放射線量や観光客数を可視化した展示などがありました。震災から12年、課題が未だに残っている一方で復興の成果が出ていることも学ぶことができました。

そして最後のゾーンは、復興に向けた「福島イノベーション・コースト構想」についての展示でした。これは震災によって失われた浜通りなどの産業を回復するために、廃炉やロボット・ドローン、医療分野などといった、新たな産業をおこすための国家プロジェクトです。このブースでは廃炉の進め方の映像やロボットの展示など、福島の未来に向けての展示物が多くありました。私がスタディツアーに参加する前の福島のイメージとしては、震災のことが大部分を占めていて、恥ずかしながら福島の「今」がどのようなものかを知りませんでした。ここは、福島について東日本大震災のころのままのイメージで止まってしまっている方にはぜひ見ていただきたいブースです。



観光客数のグラフ や除染機→

伝承館で展示物を見学した後、語り部の方に講話をし ていただきました。被災した住民の方が語り部をされ ていて、当時の経験に基づきお話をされています。本 当にたくさんのお話をしていただいたのですが、私だ けではなく他の参加学生にとっても最も印象強く残っ たお話がありました。それは、帰宅困難地域の避難指 示が解除されたとしても、避難を余儀なくされた方が 「ふるさと」に戻ることができないというお話です。 避難した方が帰りたいと思っていたとしても、生活の 基盤が避難先ですでにできているかもしれません。ま た、その時に住んでいる家を壊して、故郷で新しく建 て直すことは容易ではありません。そして、避難先で 新しくコミュニティを作っていたにも関わらず、故郷 に戻りコミュニティを作り直すことも負担になりかね ません。避難を余儀なくされた方は、そういったあら ゆる「選択」をしなければならないと教えていただき ました。結果、故郷に戻るという選択肢が増えても、 戻る人は少ないというお話をされていました。私は避 難解除の指示が出れば、被災された方は元通りとは言 わずとも、元の生活に近いものができるのだと思って いました。しかし精神的、経済的な面から、故郷に戻 ることを手放しに喜ぶことができないことを知りまし た。地震、津波、そして原発事故という複合災害が福 島にもたらした被害は、私たちが想像していた以上に

凄まじいものであるという事実を突きつけられました。

震災のことを学ぶ場合、自分で想像していたよりも悲惨な状況だと知ることの方が多いと思います。そのため、気軽に学ぶことができず、必要なことだとは分かっていながらも敬遠しがちになってしまいます。でも、私たちが福島で起こった震災について知り、そこから現在の福島について知ることは、やはりとても大事なことです。これは福島についての理解を深めると同時に、私たちの身の回りで災害が起きてしまったときに備える、学びにもなります。このARCO通信を読んでくださった方が、福島について少しでも考えるきっかけの手助けになっていれば幸いです。

## ○当時の児童の思いとは?

伝承館を見学した後、私たちは福島県唯一の 震災遺構である<u>浪江町立請戸小学校</u>を見学しました。

そちらに行くまでの道中も原子力 事故の影響で長く人が立ち入ることができなかったこの辺の地域は 自宅や商業施設がいまだに当時の まま放置されていました。



請戸小学校付近の住宅の様子→

現在避難指示は解除されていますが、避難先で定住することを決めた人も多いというお話も聞いて、故郷をある日突然離れなければならなかった人々の気持ちを考えるととても胸が痛いです。

また、原子力事故で立ち入り禁止になった地域に住ん でいた人々は人知れず誹謗中傷や面と向かって嫌味を 言われているそうです。

8月末には処理水も放出され、福島県は風評被害に悩んでいるとは皆さんもニュースでよく耳にすると思いますが、これほどであるとは想像していましたか?また、実際に私たちが1日で浴びた放射線量を計測していましたが、歯医者でレントゲンを撮る際に浴びる放射線量よりもはるかに少ない量しか浴びておらず、私たちは安心して福島で過ごすことができました。

建物の2階部分まで浸水被害にあったこの小学校は壁 や床、そして学校にある備品が散乱し、泥まみれで、 いかに強いダメージを受けたのか伝わってきます。

東日本大震災が起きた2011年3月11日14時46分。私たちは小学校低学年ほどの年齢であり、関西圏に住んでいた人なら少し揺れたなという程度だったはずです。しかし、この学校に通っていた児童はこの時間を境に人生が大きく変わってしまったといっても過言ではないでしょう。突然起きたこの震災で、また原子力発電所の爆発で、小学校にはしばらく入れなくなり、思い出のすべてを小学校に置いたまま、別の地域への避難を余儀なくされました。

私はこちらの施設を見学させてもらい、自分はなんて恵まれた学生生活を送ってきたのだなと考えさせられました。この学校の児童は故郷を強制的に離れることになり、昨日まで一緒にいた友達とも離れ離れになり…子どもたちの心を想像すると胸の張り裂ける思いがします。

またこの小学校は犠牲者を1人も出さなかったことでも有名です。その経緯も展示されているので、訪れた際は注目して見てみてください。もっと災害を自分事として考える良い機会になると思います!





ここからは私たちが見学させてもらった施設を 紹介していきます!!

## 〇他とは一風異なる水族館!!

まずはアクアマリン福島からです。ここも震災の被害を多大に受け、多くの展示品を失ってしまいましたが、他県の水族館からの寄付や水槽の清掃ボランティアなどたくさんの方の協力により、震災後わずか4か月で営業を再開した施設です。

ここは福島復興の象徴として地域の人々に勇気と希望を 与えました。

またここは生物が生息する環境を忠実に再現した環境水 族館です。例えば、太平洋の黒潮と親潮が合流する地点 は福島県沖合であるため、それを表現する巨大な水槽が あります。

他にも熱帯雨林やサンゴ礁に 住んでいる生物などたくさん 展示されていて、とても興味 深かったです。





また、水族館の中にお寿司屋さんがあることが有名です。巨大水槽を眺めながら、お寿司を食べるといういわゆる食育を促進している施設であることも特徴です。命をいただくありがたさを実感することができます。

## 〇充実したスポーツ施設!

私たちはJ-VILLAGEで一泊しました。ここは2020年の東京五輪聖火リレーの出発地だったことは記憶に新しく、聞いたことがある人も多いのではないでしょうか?ここはかつて最高の天然芝と充実した施設が有名で、サッカー日本代表選手の合宿も行われたことがあります。しかし、東日本大震災が起きてから天然芝は刈られ、砂利の駐車場になり、原子力事故の収束拠点となりました。そこから地域の方々のあつい応援により、2019年にリニューアルオープンを果たしてより、2019年にリニューアルオープンを果たしてより、ここはグラウンドやドームなど広大な土地でのびのびとスポーツが楽しめ、お部屋やお風呂もとてもされいで、疲れた体を癒せる施設が充実しています。スポーツ目的の利用はもちろん、ビジネスや旅行での利用もできるすばらしい施設だと感じました。まさしく福島復興のシンボルです!

#### ○福島の新境地

2日目の夕方には福島ロボットテストフィールドに訪れました。ここでは大学や企業さんがロボットの使用 実験に活用している場所です。都市ではロボットの臨 床試験を行うには安全面が不安ですが、ここでなら思 う存分ロボットの実験が行えます。

例えば、災害後に人が入れないようなところに捜索活動を行うロボットです。





福島の特に浜通り地域は震災の影響を多大に受け、何もない地域になってしまいました。

しかし、言い換えれば、何もないからこそ自由に何でもできる、希望で満ち溢れる地域であるとおっしゃっていたのが私の中ではとても印象的でした。そしてまさしくここはロボットの最先端となっています。

福島の自然豊かで広大な土地を活かしてロボットの実験場やサッカー場を作ったり、震災のことを知らない世代に講話を開催したり…

福島の人々はみなそれぞれ前を向いて歩んでいます!

2日目の夜は飯坂温泉を訪れました。福島県は後述の通り火山も多く、温泉も有名な観光地のひとつです。私たちはそこで豪華な日本料理コースも頂き、旅の疲れを癒すことができました。



ここからは、観光をして気づいた<mark>福島の魅力</mark>について お話します!

## 

まず3日目は<mark>桃狩り</mark>をしました。枝の先や上にある桃の方が太陽の光を受けて熟していると教えていただき、どれがいいかなとたくさんの桃と見比べて1つに決めました。果樹園の方が皮ごと食べるのをおすすめされていたので、そのまま食べてみると果汁がしたたるほど甘みが凝縮されていて、2個、3個とパクパク食

べられるほど美味しかった です。ぜひ皆さんも食べて みてください!

> 桃がたくさん なっていました!→



## ○15分で山登り?

桃狩りの後は、浄土平という湿地帯に訪れました。浄土平は、磐梯吾妻スカイラインという全長29kmの山岳観光道路の中間地点に位置しています。磐梯吾妻スカイラインは、歴史性や美観性などで優れていることが認められた、日本の道100選に選ばれているそうです。標高は約1600mで、浄土平に向かうバスの中からでも雲を近く感じるほどの高さで、真夏ではありましたが過ごしやすい気温でした。



浄土平のすぐ近くに、吾妻小富士という標高約1700mの火山があります。頂上にある火口壁までは15分程度で、道も舗装されているので登り

やすかったです。吾妻小富士は、なんといっても大きく窪んでいる火口が見どころでとても圧巻されます!また、出発地点の浄土平一帯やたくさんの山々を見渡すことができ、なおかつ天気もよかったため清々しい気持ちになりました。ちなみに、火口壁は1時間程度でぐるっと1周することができるそうです。私たちは時間がなくて断念してしまったのですが、ぜひ訪れてみてください!



↑吾妻小富士



↑写真では分かりにくい ですが、窪みです!

## ○神秘的な湖沼→

それから私たちは浄土平から降りていき、五色沼をハイキングしました。五色沼は、毘沙門沼や赤沼など数多くの湖沼の総称で、初心者向けのハイキングコースは約4kmの距離がありました。それぞれの沼に訪れる山中で、案内係の方が五色沼の歴史や植物についてお話してくださっていました。中には温暖化やプランク

トンの影響で、元の色から変色している沼があることもお話されていて、この沼をいつか見られなくなるのではと思い、悲しい気持ちになりました。ただ、多くの沼が、それぞれの上方にある山々や雲を鏡のように映し出していて、とても綺麗でした。なかなか湖沼を見る機会はなかったこともあり、約1時間30分歩き続けた後は達成感がありました!





(左)遠藤現夢翁の碑の看板 (右)五色沼

## ○誰もから長く愛される船畫

五色沼を楽しんだ後、私たちは<mark>猪苗代湖</mark>を訪れました。訪れたときは少し波が立っていたこともあり、海かと勘違いするほど広い湖でした。ちなみに日本で4番目に広い湖だそうです。猪苗代湖には遊覧船のはくちょう丸と、観光クルーズ船のかめ丸がいました。かめ丸には昭和天皇もご乗船されたらしく、はくちょう丸とともに約60年運航されているそうです。私たちは外から見ただけでしたが、また訪れた際に乗船してみたいなと思っています!



(左)かめ丸とはくちょう丸 (右)海のように見えませんか?



## ○会津藩のシンボル<u>≜</u> 最終日の4日目は、まず若松城を訪れました。

ここは別名、鶴ヶ城や 会津城とも呼ばれてい て、戊辰戦争の舞台に なったことでも有名で す。入城すると、まず 塩層という石垣部分を すぐ近くで見ることが できます。1層から4層



は剣や兜や銃、絵巻などの展示や会津城にまつわる歴 史の説明があります。展示物も説明もたくさんあるの で、日本史が好きな方はもちろんですが、日本史は苦 手だなという方でも惹き付けられると思います。 5階は展望層になっていて、若松城周りをぐるっと見渡すことができ、当時のお城などがどこに位置するかが描れている地図がありました。現在は建物が多く建ち並んでいますが、当時は城下町であったことを視覚的にも学ぶことができました。また、奥には山々が広がっていて、白虎隊が自害した飯盛山なども見ることができ、貴重な体験をすることができました。

ちなみに、同志社大学の創始者である新島襄の妻である新島八重は、会津藩の砲術師範である父のもとで育ちました。戊辰戦争が始まると、自らが七連発スペンサー銃を手に奮闘したそうです。八重のように会津にゆかりのある人物の説明もあるので、ぜひ見てみてください!





(左)加藤家の兜(大国頭巾鳥毛 飾兜(模型)) (右)錦絵「京都戦争之図」

## ○郷土玩具の手作り体験!

会津城の見学をした後は、鶴ヶ城会館で赤べこの絵付け体験をしました。赤べこは会津地方の郷土玩具で魔除けの縁起物で、べこは牛を意味しているそうです。スタディツアーに行った、他の学生と



一緒に体験したのですが、みんなそれぞれの個性が赤べこに表現されていて、描くのも見るのもとても楽しかったです!お土産としても有名なので、オリジナルの赤べこを持ち帰ってみるのはいかがでしょうか?

## ○地産地消のお店へ

絵付け体験を終えた後は、BestTableというお店でお昼をいただきました。ここは福島県で作られた食材を、四季の変化を感じながらいただくお店です。メインのお肉は柔らかくて美味しかったのですがそれだけではなく、サラダや付け合わせの野菜も甘味があったりシャキシャキしたりしていて、サラダからデザートまで全てが本当に美味しかったです!福島を、こういった形でも感じることができてとても嬉しかったです。



←とてもおいしいので ぜひ皆さんも食べてく ださい!

こうして福島スタディツアーを終えました。

福島の方がおっしゃられていたのですが、現在の福島には「光と影」の部分があります。このスタディツアーを通して、復興が進んでいる部分とそうでない部分を学ぶことができました。

また、震災以外の面を体験できたことで、ほんの一部分ではありますが福島の魅力を知ることができ、福島を身近に感じるきっかけになりました。

福島県は私たちが紹介したこと以外にもたくさん見直があるので、この体験記を通して福島に行ってみたいなと思っていただけると嬉しいです!

## ○紹介しきれなかった写真





↑J-VILLAGEで 展示されている サッカー日本代表選手の ユニフォーム

↑福島県は日本酒も有名です!





(左)道の駅なみえ:なみえ焼きそば 通常の3倍ある太い麺と豚肉ともやしだけのシンプルな焼き そばですが、濃厚ソースがとてもおいしかったです。

#### (右) 浄土平: 会津塩ラーメン



←日本三大饅頭の一つ 薄皮饅頭 お土産におすすめです!

#### ()動画でわかる福島!

福島県は福島の魅力をもっと知ってもらうため、 様々な取り組みをされています。 最後にいくつかご紹介させていただきます。

現在俳優の松岡茉優さんが就任しておられる 「福島知らなかった大使」についてです。 彼女は福島県の魅力を知らなかった人の代表として、 福島県の様々な観光地を訪問し、 「ふくしまの今」や「復興のあゆみ」を学び、 広く伝えています。 福島県公式YouTubeで動画が たくさんアップされています。

また、気軽に楽しみながら福島県の魅力を知ってもらうため6秒紹介動画も公開されています。 本当にかわいい動画になっています。

私たちのARCO通信を読んで、 福島県に興味を持ってくださった方は これらもぜひチェックしてみてください!

今回私たちが訪れたところの動画のリンクを 右側に貼っています!



福島知らなかった大使 アクアマリン福島



福島知らなかった大使 J-VILLAGE



福島知らなかった大使 ロボットテストフィールド



福島知らなかった大使 小学校&道の駅



福島知らなかった大使 猪苗代湖



6秒動画 五色沼



ここで紹介した動画は一部なので、 ぜひ他の動画も見てください! ←福島県公式チャンネル



6秒動画 鶴ヶ城



6秒動画 阿波饅頭

↑とても人気な饅頭なので、 ぜひ食べてみてください!

## ○編集後記

最後までお読みいただき、ありがとうございました!

私は正直なところ今まで東北地方に行ったことがなく、福島県といえば復興のイメージしかなかったのですが、 福島県は自然に恵まれ空気もきれいで、食材もおいしく、かつ震災学習もできるといういいとこ尽くしの県であること に気づくことができました。

皆さんもぜひ一度は福島県に足を運んでみてください!新たな発見があるはずです!

もっと詳しい話を聞きたい方は今出川キャンパス良心館地下ラウンジ、ボランティア資料室に気軽にお越しください! 私たち2人は秋学期間、火曜日の昼休みにいます!

また、ボランティア資料室では私たちARCOが同じ学生目線からボランティアの紹介や相談を受け付けています。 日程などはARCO公式インスタグラムをご覧ください。

## お問い合わせ先

ボランティア支援室(今出川)

場所:室町キャンパス寒梅館1F

開室時間:平日9:00~11:30、12:30~17:00

MAIL: ji-volun@mail.doshisha.ac.jp

TEL: 075-251-3236









(一番左)ボランティア支援室ホームページ その他ARCOのSNSアカウント